

2023 年度 卒業生アンケート結果 報告書

1. 総括

今年度は、卒後 1 年目（28 期生：61 名）・2 年目（27 期生：59 名）の計 121 名を対象とした。調査依頼は、対象者全員が登録されている看護学科キャリアサポートステーションおよび学年 LINE を併用し調査依頼を行った結果、昨年度よりも回答者が微増した。調査で対象となった卒業生は、2018 年度および 2019 年度入学生である。卒後 2 年目の 27 期生は、平成 29 年にカリキュラム改正された教育プログラムを、卒後 1 年目の 28 期生は一部の科目の開講時期・時間数等の変更および選択科目の増設を行った 2019 年度カリキュラムを受けていた。

全 DP において、「教育プログラムが就職先や進学先で活かすことができているか」に対し「そう思う」と回答した割合は、2019 年度カリキュラムを受けた 28 期生が 27 期生が卒後 1 年目だった時点よりも飛躍的に高かった。28 期生が「そう思う」と回答した割合が高かったのは、DP6・5・3 であった。「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が 100% であったのは、DP1・2・3・5・6 であった。100% でなかったものの、DP4・7 も 9 割を超える高評価であった。DP8 は、52.3% が「そう思う」「まあそう思う」と回答し、昨年度（27 期生）の 22.3% から倍増した。27 期生は、昨年度の回答と比較すると各 DP において回答の変化がみられたが、DP1・3・5・6 は「そう思う」「まあそう思う」が 9 割を超えた。昨年度と比較し、「そう思う」「まあそう思う」の割合が増加したのは、DP1・4・5・8 であった。逆にやや低下したのは、DP2・6・7 であった。

以上から、DP を涵養する科目を充実させた 2019 年度カリキュラム改正により、看護学科の教育プログラムは卒業後に高い割合で活かされていることが確認された。また 27 期生においては、自由記載から臨床での経験値の高まりや広がりに伴うカリキュラムへの内省の深まりが伺えた。卒後 1 年目の調査で比較的低い評価であった DP4 や DP8 の評価が高くなっていたり、2 年目で DP2・6・7 は低下がみられたりしたが、その要因として臨床で活かす機会が増えたことや臨床での役割が拡大するなかで求められる内容や課題が増えたことが原因ではないかと推測された。

2. 概要

- ・時期：2023 年 10 月～11 月末
- ・対象：看護学科卒後 1 年目（28 期生：61 名）・2 年目（27 期生：59 名）
- ・方法：Google Form を用いた無記名 web 上アンケートを実施した。

依頼方法は、看護学科キャリアサポートステーションおよび学年 LINE にて調査依頼とアンケート URL を配信した。

- ・回答者数（回収率）：

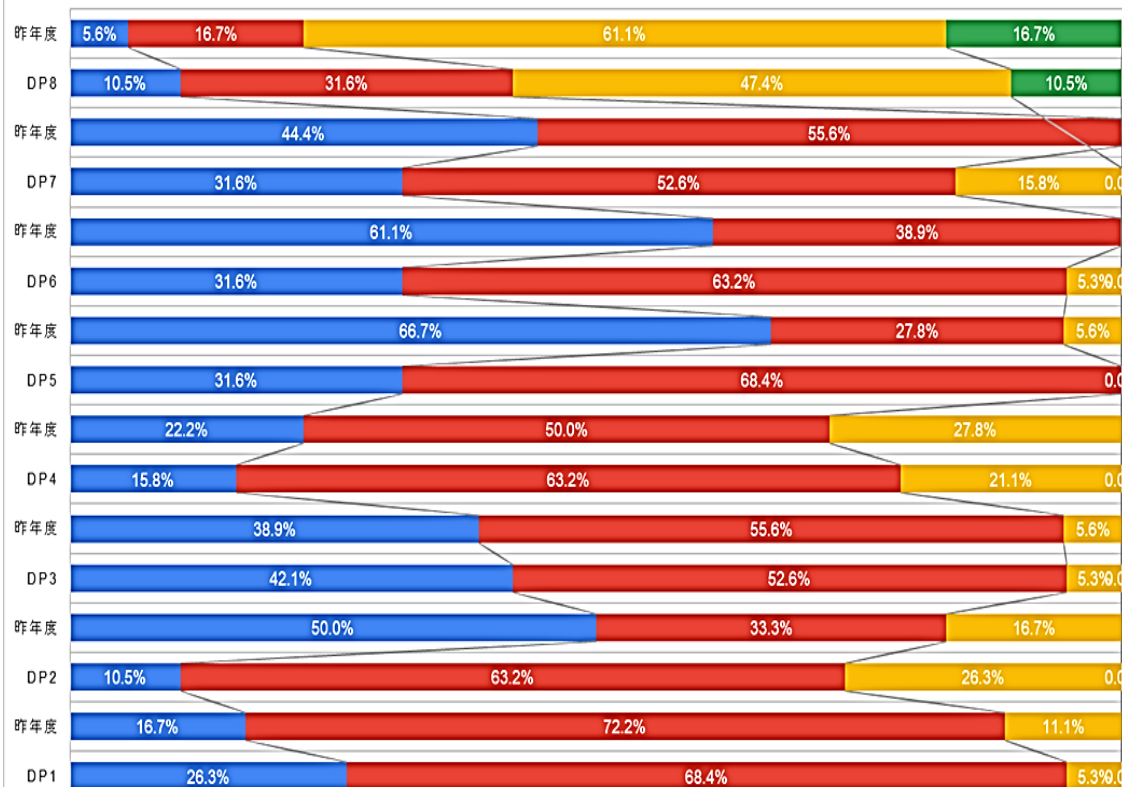
卒後 1 年目（28 期生）：21 名（34.4%）	※2022 年度（27 期生）：18 名（30.5%）
卒後 2 年目（27 期生）：19 名（32.2%）	※2022 年度（26 期生）：14 名（23.0%）

1) 卒業後看護職として働いた年数				
	27期生		28期生	
1年以上2年未満	16	84.2%	3	14.3%
1年未満	3	15.8%	15	71.4%
看護職として働いていない	0	0.0%	3	14.3%
※1年未満：3名（助産師）				
2) 現在の職種				
	27期生		28期生	
看護師	17	89.5%	18	85.7%
保健師	0	0.0%	0	0.0%
助産師	3	15.8%	0	0.0%
養護教諭特別科	0	0.0%	1	4.8%
大学院生(博士前期課程, 修士課程)	0	0.0%	1	4.8%
専攻科	0	0.0%	1	4.8%
3) 雇用形態				
	27期生		28期生	
常勤	19	100.0%	18	85.7%
非常勤	0	0.0%	0	0.0%
学生	0	0.0%	3	14.3%
4) 所属施設の種類の種類				
	27期生		28期生	
大学病院	9	47.4%	16	76.2%
総合病院など(入院設備あり)	9	47.4%	2	9.5%
訪問看護施設	1	5.3%	0	0.0%
大学	0	0.0%	2	9.5%
大学院	0	0.0%	1	4.8%
※大学，大学院は助産学生				
5) 卒業後の進学の有無と進学先				
	27期生		28期生	
進学していない	16	84.2%	18	85.7%
進学した	3	15.8%	3	14.3%
	27期生		28期生	
上智大学(助産専攻)	1		0	
東京都立大学(助産専攻)	0		1	
日本赤十字社助産師学校	2		0	
金沢大学	0		1	
日本赤十字看護大学大学院	0		1	
6) 未進学者の進学希望				
	27期生		28期生	
進学した	3	15.8%	3	14.3%
進学希望がある	1	5.3%	3	14.3%
進学希望はない	10	52.6%	11	52.4%
どちらともいえない	5	26.3%	4	19.0%

3. 結果

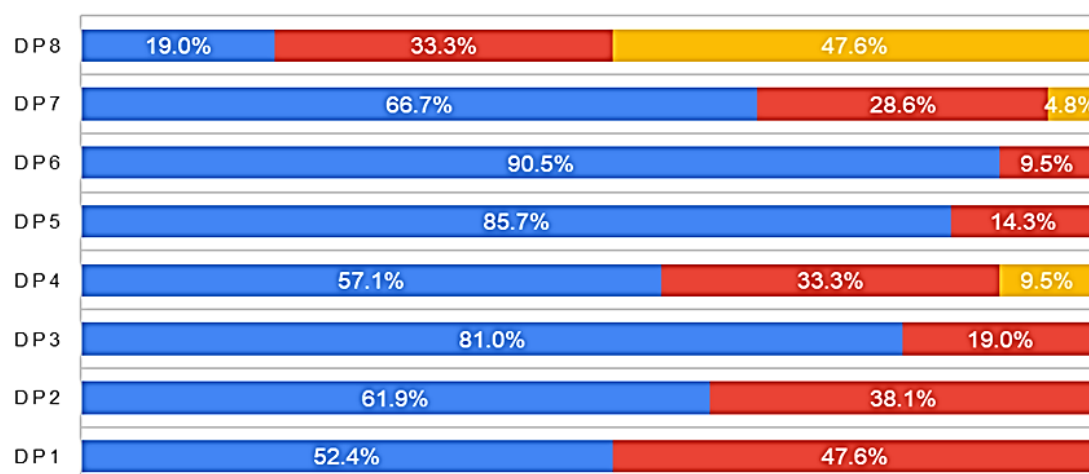
1) 看護学科で学んだ教育プログラムを就職先や進学先で活かすことができたか

27期生



	DP1	昨年度	DP2	昨年度	DP3	昨年度	DP4	昨年度	DP5	昨年度	DP6	昨年度	DP7	昨年度	DP8	昨年度
■そう思う 5	26.3%	16.7%	10.5%	50.0%	42.1%	38.9%	15.8%	22.2%	31.6%	66.7%	31.6%	61.1%	31.6%	44.4%	10.5%	5.6%
■まあそう思う 13	68.4%	72.2%	63.2%	33.3%	52.6%	55.6%	63.2%	50.0%	68.4%	27.8%	63.2%	38.9%	52.6%	55.6%	31.6%	16.7%
■あまりそう思わない 1	5.3%	11.1%	26.3%	16.7%	5.3%	5.6%	21.1%	27.8%	0.0%	5.6%	5.3%		15.8%		47.4%	61.1%
■まったく思わない 0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		10.5%	16.7%

28期生



	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
■ そう思う 11	52.4%	61.9%	81.0%	57.1%	85.7%	90.5%	66.7%	19.0%
■ まあそう思う 10	47.6%	38.1%	19.0%	33.3%	14.3%	9.5%	28.6%	33.3%
■ あまりそう思わない 0	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	4.8%	47.6%
■ まったく思わない 0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2) 自由記載

DP1 主体的学修能力

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 1 年目の時は特に自主勉強していた。
- ・ 疾患などの勉強を適宜進めているため。
- ・ 課題を与えられるより自ら学ぶ方がより知識が定着し現場で活かすことができるため。
- ・ 自主学習の習慣が大学で多少ついており、働き出してからも継続できたから。その様子を職場の先輩が褒めてくださったことがあり、大学時代に習慣づけられてよかったなと思った。

<28 期生>

- ・ わからないことを調べるという習慣はついた
- ・ 先輩から積極的に学ぼうとする姿勢があると褒められたから

DP2 課題解決能力

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 研修にも役立ったため。
- ・ 看護研究で取り扱った分野の看護を行っているため、役立っていると思う。
- ・ 大学時代に文献に触れる機会が多くあったため、適切な資料から知識を得て完璧ではないがそれを実践に繋がれたから。

<28 期生>

- ・ 知識は役にたったが、現場でのギャップが大きい
- ・ 入職して半年だとまだそこまで視野が広がらないが今後必要だと思う

DP3 パートナリシップ

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 先輩方と協同して看護を出来たと感じるため。
- ・ 患者さんや御家族との関係を築く際に役立っていると感じている。
- ・ 学生時代ひたすらグループワークを行っていたおかげで、他職種や先輩、後輩、患者、家族などとのコミュニケーションや関係づくりについて時々悩みながらも少しずつ構築できたから。

<28 期生>

- ・ 優しい気持ちで働こうと思う
- ・ 師長さんや先輩から慈恵卒の子は周りをよく見れると褒められたから。

DP4 地域医療連携能力

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 定期試験や国試前にひたすら覚えた色々な制度について忘れてしまった部分もあったが、MSW さんに聞いてみたり大学時代な資料を振り返ることで受け持ち患者の状況について把握することができたケースがあったから。

<28 期生>

- ・ 無知ではないから助かるが、実際はもっと複雑
- ・ 退院支援の実習で在宅 Ns の役割を学んだので病棟にいても意識的に在宅 Ns や MSW と協力しようと思っている

【あまり思わない】

<27 期生>

- ・ 地域との連携がないため。
- ・ 地域連携などの分野に携わっていないため、あまり活かすことはできていないと思う。

DP5 倫理的態度

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 患者に対する態度などの意識に結びついた。
- ・ 患者の倫理や権利については日頃から考えさせられる場面が多くあるため。
- ・ 職場で倫理について振り返る機会が研修や部署内のカンファレンスで少しある程度だったため、いかに大学で倫理観を養う教育をしていただいたかに気づかされた。働いていてもこれでいいのかな？と感じる場面に出会うこともあり、そのように疑問に思えたのは大学での授業があつてこそだと思った。

<28 期生>

- ・ 倫理観が働くことがあるが現場でのギャップが大きい
- ・ 日頃から倫理的な視点をもって患者さんと接することが出来ているから。倫理カンファレンスを沢山したので意識しやすい。

DP6 教養に裏付けられた品格

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 患者に対する態度などの意識に結びついた。
- ・ 社会人としてのマナーや礼儀はしっかりいかせていると思っている。
- ・ 部活で他の学部や自分と 5 つも年齢の離れた人がいる環境にいたからこそ、上下関係を学んだり相手を敬う気持ちを育めたように思う。

DP7 メンバーシップ・リーダーシップ

【そう思う】【まあそう思う】

<27 期生>

- ・ 先輩方に協力頂きつつメンバーの一員として病棟全体での看護を行えたため。
- ・ セル看護方式であり、チームメンバーと協力する場面が多くあるため。
- ・ 授業や実習で同級生とコミュニケーションをとる機会が多く、ディスカッションなどに全然躊躇する気持ちがなくなり、職場でも分からないことを聞いたり自分の意見を発信したり相手の意見を聞いてみたりして治療の方向性を相談できたりしたから。

<28 期生>

- ・ 1 年目でもメンバーシップ、リーダーシップの役割を意識できてるから。

DP8 国際的視野

【あまり思わない】【まったく思わない】

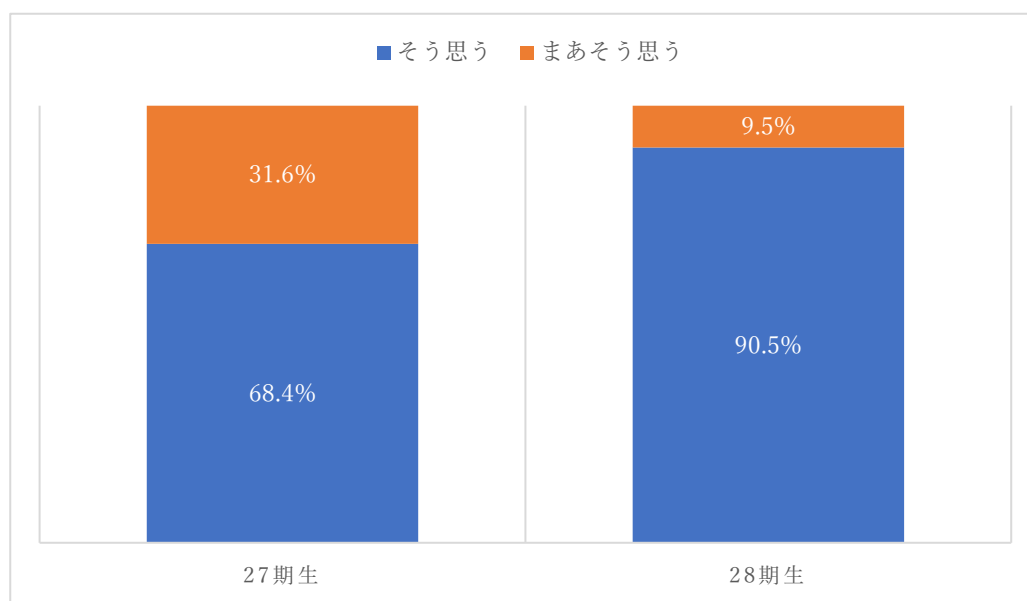
<27 期生>

- ・ 使うことがなかった
- ・ 外国の患者さんなどがいらっしゃっても、あまり自分のスキルがいかせないことが多い。
- ・ 立地上、外国人の患者さんもいらっしゃることが多く、英語がうまく話せなくてもどかしくなることがあった。大学時代、自主的に英語の試験を受けたりもしていたが、もっと英会話を鍛えられていたらよかったなと思うことがあるため。今、時間を見つけて勉強しているが、やはり時間に余裕がある学生時代にもっとやっておけばよかったと思った。

<28 期生>

- ・ 知識はあまりないが想像より色々な国籍と患者さんと接することが多くもっと勉強すれば良かったと思っている

3) 看護学科で学んで良かったですか



自由記述

【そう思う】

<27 期生>

- ・ 大学だからこそ学べたことが多くあったと感じた。
- ・ 医学科生との授業があり、他職種連携を学ぶことができたため。先生方が優しく、学びやすい環境が整っていたため
- ・ 看護師として仕事にやりがいを感じているため。
- ・ 慈恵で患者・家族について深く考える看護を学んだおかげで現場で生かしているから。普段 ICU で病態のことばかりに目が行きがちな時でも、ふと患者さん・家族の思いが気になることがあり、自分で情報を取ってみようと思えるのは、慈恵で学んだからこそなのかなと思う。また、個人的には慈恵での部活も今の忍耐力や周りとの関わり方に繋がっていて、今後も看護学科の後輩には大学の授業も部活もどちらも充実させてほしいなと思いました。
- ・ とても良い仲間と先生に出会えた。今でも相談し合える同士がいるのは心強い。
- ・ 友人に出会えたこと

<28 期生>

- ・ 慈恵の看護学科卒の子は本当に良い子ばかりで同期としてとても働きやすさを感じるから。
- ・ メンバーシップ・リーダーシップ、倫理的視点が身についているから。先輩から患者さんを生活者として看れていると褒められるから。

4) 看護学科で受けた教育の中で、これからも継続すべきこと

<27 期生>

- ・ 少人数教育
- ・ 1.2 年次の清拭など、実践方式の看護演習が役に立つと思う。
- ・ "倫理について考える授業は今後もぜひ継続してほしいなと思いました。学生時代は正直、「また倫理の話か…」と思うくらい倫理に関わる授業が多いように感じていましたが、深く学べるのは大学が最後なんじゃないかなと思うくらい、職場ではなかなか倫理について学ぶ機会がないので、ぜひ「倫理的にこれでいいのかな？」と働く中で気づける看護学生・看護師の育成が必要だと思います。また、私が所属している部署独自の課題で関連図の課題が時々出されるのですが、同期の中に大学時代関連図をあまり学んでなかった人がいて苦戦していたので、慈恵でかなり丁寧に先生方に添削していただけて良かったなと思いました。実際、患者さんを捉える上で今も自分で時々関連図を書いたりするので、学生時代に頑張った分だけ将来生きてくるんじゃないかと思っています。"

<28 期生>

- ・ 領域別で倫理カンファレンスがあったこと、リーダーシップ・メンバーシップ論

5) 看護学科で受けた教育のなかで、改善したほうがよいと思われること

<27 期生>

- ・ なし。
- ・ 英語の授業の充実化が進めばいいなと個人的には思いました。他の授業でも結構忙しいのでなかなかカリキュラムに入れ込むのは難しいのかもしれませんが、3・4 年生でも英会話などに触れる機会があればいいなと思いました（3 年生は前期の課題と後期の実習でいっぱいいっぱいかもしれませんが

んが…)

- ・ 課題が多い。

<28 期生>

- ・ コロナ禍だったこともあるが技術演習がもっとあれば良かったです

4. 点検・評価と改善点

今年度も昨年度に引き続き卒後 1 年目と 2 年目を対象者とした。卒後に活かすことができている DP はこれまでと概ね同じ結果であったが、カリキュラム改正を重ねることによる高評価につながっていた。DP8 についても英語の授業の充実を求める声はあるものの、28 期生では高評価の割合が上昇し、また 27 期生においても卒後年数を経ることによって高評価の割合が倍増していた。また、27 期生および 28 期生ともに「そう思う」「まあそう思う」が 100%であった DP5 は、「これからも継続すべきこと」にも「倫理について考える授業は今後もぜひ継続してほしい」という意見があるように大学での教育が現場での思考や態度に直接結びついているようであり、継続すべき教育プログラムである。一方、DP8 は他の DP と比較すると低評価が続いているものの、高評価をする割合が増加しており、現在検討されている教育プログラムの充実により今後さらに高評価と転じる。

看護学科 IR 委員会